

国際金融公社(IFC)の投資戦略と企業の社会的責任(CSR/SRI)およびそのビジネスケース

日時：2004年3月18日(木) 14:00～16:00
場所：富国生命ビル 28階中会議室
主催：国際金融公社(IFC)、財団法人海外投融資情報財団(JOI)
使用言語：日本語

プログラム

- 14:00～14:10 開会挨拶
藤倉 基晴(国際金融公社(IFC) 東京駐在特別代表)
- 14:10～14:55 IFCの投資戦略と企業の社会的責任(CSR/SRI)およびそのビジネスケース
1) IFCの戦略：特に持続可能性の観点から顧客に付加価値をもたらすには
2) IFCの持続可能性イニシアティブ：何故持続可能性が重要なのか
3) IFCにおける具体例
増岡 俊哉(国際金融公社(IFC) 戦略ユニット シニアマネジャー)
- 14:55～15:15 民間セクターでの具体例
モザール：モザンビークにおけるアルミニウム精錬所プロジェクト
高橋 伸輔(三菱商事株式会社 非鉄金属本部 アルミ事業担当)
- 15:15～15:35 民間セクターでの具体例
World Business Council for Sustainable Development (WBCSD) における
セメント産業自主対策とその取組み
和泉 良人(太平洋セメント株式会社 SD推進室長)
- 15:35～16:00 質疑応答

国際金融公社(IFC)は、世界銀行グループの一員として、途上国における民間主導のプロジェクトに資金を提供(出資、融資、保証およびシンジケートローン)することにより、開発途上国への民間投資を促進し、貧困を削減させることを目指しています。1956年の設立以来、これまで140カ国の3000余りの企業・プロジェクトに対して投融資を行っており、文字通り途上国における民間セクターへの投融資を提供する最大の国際機関です。